

地区・地域の紹介 佐保台 さほだい

【地勢と沿革】

奈良県と京都府の府県境界には平城山（ならやま）と呼ばれる小高い丘陵地が連なっており、その平城山丘陵の東端に佐保台地区はあります。都市計画道路奈良阪南田原線（通称外環）の開通により、昭和40年代からあった宅地開発構想が具体化し三井不動産が昭和50年代の初めに奈良阪町と佐紀町にまたがる43.8haの開発許可を得た。当地区全域が風致地区に指定されていることもあり①集合住宅は認めない②一区画当たりの面積は250～300㎡にする③開発地の周囲は緑地帯を設置するなどの開発指導があったとのこと。そのため、宅地は約750区画と少なくなったが緑豊かな住宅地が形成され、昭和58年12月から入居が始まりました。

【管理組合の設立と解散】

佐保台地区は木津川（京都府側）流域のため、排水を奈良市の公共下水道に接続することができなく、単独の下水処理施設が設置された。また、住民のための集会所として三井佐保山住宅集会所が建設、テレビの共同アンテナ施設（CATV）も設置された。これら三つの施設を管理運営するため、住民による管理組合が設立され、入居者はこの管理組合に加入することが義務付けられた。その後、下水処理施設を住民が管理運営していくことは、経費面、技術面において負担が大きいため、市に移管を求める声があがり、平成8年に市へ移管された。また、テレビ受信施設については民間のテレビ受信も含めたインターネット網の発達により、効率性、利便性の観点からテレビの共同受信施設を廃止した。

開発業者が建設し管理組合が運営していた集会所については、奈良市が小学校区毎にふれあい会館の整備を進めていたことから、奈良市へ無償譲渡し、新たに佐保台地域ふれあい会館として平成21年に市の公の施設となった。この無償譲渡については一部反対意見もあったが、市の施設になることによる、大規模修繕や光熱水費が市の負担となること、また指定管理料収入があることから、地域の負担が軽減され、そして、奈良市もあらたに用地取得、施設建設の必要がなくなる

ことから、双方にメリットがあったと思料される。なお、ふれあい会館は平成23年に、市が1棟を増設し、大幅に利便性が上がった。

このように、管理組合が運営していた3事業が終了したことから平成21年に無事解散することとなった。

【平城山駅の開業】

当初佐保台地域住民の交通手段はJR奈良駅から近鉄奈良駅を経由して佐保台地域内を抜け近鉄高の原駅を結ぶ奈良交通の路線バスのみであったが、地域の西側をはしる国鉄（現JR）関西本線に新駅建設の構想が持ち上がり、国鉄も周辺に車両基地設置を予定していたことから、新駅「国鉄平城山駅」が昭和60年12月に開業し、大阪、京都への通勤・通学の利便性が向上した。

なお、建設に伴う費用は駅舎並びに住宅地を結ぶ跨線橋そして当初の運営費すべてを当地域の開発者である三井不動産が負担した。

【佐保台小学校の開校】

開発計画における土地利用図には、地域内に小学校と幼稚園の設置が示されており、広告図面にも同様の図面が記載されていたが、入居が始まって、市による小学校建設の動きは無く、小学生はバスで朱雀小学校へ通学していた。地域内に小学校があることが購入のきっかけとなった住民もおり、また、小学生の数も増えてきたことから、小学校建設を求める声が大きくなり、住民からの市議会などへの陳情なども功を奏し、昭和62年4月、佐保台小学校が開校された。

当初約180人の児童が在籍したが、平成8年ころから児童数が減少し平成20年には児童数74人となり、複式学級や廃校になるのではとの噂話もできるようになったが、その後、佐保台西町や佐保台一丁目（ビバリーヒルズ）の入居が始まったことから、平成20年を底に児童数が増え始め、令和5年には188人の児童が学んでいる。

【奈良北地区土地区画整理事業】

奈良市は平城山駅設置計画に伴い駅へのアクセスの必要性から、国鉄関西線と国道24号線に挟まれた南北に長い歌姫町、佐紀町、奈良阪町に属する約13haにつ

いて土地区画整理事業を計画した。

昭和61年2月に事業を開始し、平成4年3月に事業完了となる「奈良北地区土地区画整理事業」が施行され、新たに佐保台西町となった。この区域内には、奈良市の公共施設として勤労者総合福祉センターと人権啓発センター（その後廃止）が建設された。

【大型スーパー建設反対運動】

平成10年ころに佐保台二丁目の西側の山林に大型スーパー建設計画が持ち上がった。郊外型スーパーで大きな駐車場を設置することから、住民の交通公害を心配する声が上がリ、反対署名運動の結果、多数の署名が集まり奈良市などへ陳情したところ、この大型スーパーの計画は取りやめとなった。

その後、しばらくして当該地の佐保台一丁目は住宅地として開発され、ビバリーヒルズの愛称で売り出され、電柱のない美しい街並みが完成した。

【わが街の自慢】

佐保台を来訪した方々から聞く声は「美しい街ですね」というお言葉です。朝から道端を清掃する方をよく見ますし、公園はグリーンサポートボランティアクラブや万年青年クラブの会員の皆さんが毎月除草や清掃をしてくれており、歩道の清掃も定期的に行われています。これも緑豊かな閑静な街で暮らしたいと入居された住民の気持ちの表れです。

今、当地区の課題はJR平城山駅のバリアフリー化と太陽光発電業者が行った緑地破壊の復元です。かつて、この町では小学校開設、下水処理場市移管、大型スーパー反対などで住民が運動を起こし、実現してきたことに学び、これら二つの大きな課題に取り組んでいきたいものです。

【佐保台の地域活動】

●自治連合会

昭和63年結成。地区社会福祉協議会、民生委員・児童委員協議会、自主防災防犯協議会と連携・協議して地域の安心・安全の取り組みを進めるとともに、地域の要望を取りまとめ住環境の改善を進めている。また、とんど焼き、夏祭り、文化祭を開催し、地域住民のコミュニティ増進に努めてきた。昨年より夏祭りをリニューアルした佐保台ふれあいフェスタを行っている。地域自治協議会が結成後は、とんど焼き、文化祭

などの主管を自治協議会に移管し、相互の役割を理解、分担し地域活動を担っている。現在は当地区の重要課題である、「JR平城山駅のバリアフリー化」「太陽光発電事業による緑地破壊の復元」に取り組んでいる。

●地域自治協議会

令和2年4月に結成。地域内の各種団体はもとより事業所や連合会未加入自治会・住民も巻き込み活動を行っている。特に地域内の高齢者福祉施設の協力により、実施している、買い物支援送迎車サービスは特筆すべきものです。

- ・文化祭の実施（芸能発表会・作品展示会）
- ・軽スポーツ大会の実施
- ・とんど焼きの実施

●地区社会福祉協議会

平成22年9月結成

- ・ふれあいサロン：ふれあい広場を開催し、歌声サロン、健康出前講座、介護予防講座などにより高齢者の健康とつながりの増進に努めている。
- ・手軽な健康ウォークの開催
- ・生活、健康、福祉なんでも相談会の開催
- ・放課後子ども教室の運営に参画

●自主防災防犯協議会

防災避難訓練、避難所開設訓練を通して、住民の防災意識の向上を図っている。また、防災倉庫に災害時応急対応備品や備蓄物資の確保に努めている。

- ・迷惑駐車追放防犯パトロールの実施
- ・児童登校時見守りパトロールの実施
- ・親子防災教室の実施

●グリーンサポートボランティアクラブ

毎月、地域内の3か所の街区公園の除草、清掃、低木の剪定を行っており、子どもたちのあそび場や高齢者の憩いの場を提供している。また、2か所の花壇も整備しており、やすらぎの場となっている。

●万年青年クラブ

会員数130名を超える、地域内の最大のグループ。カラオケや手芸などの趣味を楽しむグループやいきいき健康塾という踊りやダンスを楽しむグループが活動している。また、公園や道路の清掃活動も定期的に行っている。